

## 2011東京・マラソンスイミング 競技規則

本大会は、財団法人日本水泳連盟のオープンウォータースイミング競技規則（2010年4月1日）に則って開催します（一部、大会独自のローカルを適用）。

(1) スタートは、レースディレクターの指示・誘導に従い、招集エリアからスタートエリアまでゆっくり・静かに移動し、選手の身体の一部が水中に浸かった状態からスタートとなります。

(2) 競技は、フリースタイルでの実施し、レース中は、各審判員の指示、勧告などを必ず遵守することとする。なお、競技を行う上での子細については、スタート前のレースディレクターからの競技説明の内容を確認し、遵守することとする。

(3) 審判長、レースディレクター、レフェリーの判断により、妨害や故意による接触を行なった競技者に対して、失格処分を課します。

(4) レフェリーが当該競技者の行為を「スポーツマン精神に反した行為」と判断した場合、レフェリーはただちに当該競技者を失格処分とします。

(5) 競技者は、競技中に海底に立っても失格にはなりません。歩いたり、ジャンプしたりしてはいけません。

(6) 競技者はあらゆる固定もしくは浮き装置から支援を得てはなりません。明らかに競技続行困難な状況にある競技者への医事救護員らによる医療行為も、失格処分とします。

(7) 競技者は、スピード、持久性もしくは浮力を高めるような装置を使用もしくは着用してはいけません。ゴーグル、最大2枚までのキャップ、ノーズクリップ及び耳栓の使用は可とし、スイムキャップは、主催者側が支給するものを使用することとする。なお、スイムキャップを2枚使用しようとするときは、支給されたスイムキャップを外側に必ず着用してください。

(8) 競技者は、グリースもしくはその種の物質を使用することが可能ですが、審判長の判断により過度の使用にならないことを条件とします。

(9) 選手権の部の出場者は、財団法人日本水泳連盟「国内競技会での水着の取扱いについて」（2011年4月1日掲載）に準じた水泳着を着用してください。浮力などが伴う、ウェットスーツやラッシュガードの着用は認めません。一般の部の出場者は、ウェットスーツ、ラッシュガード、大会主催者が貸与する安全装具の使用は可能です。なお、水泳着は、見苦しいものや不謹慎なものの着用は認めません。審判長は、競技者の水泳着が透けているもの等、規定に当てはまらないときは、その競技者の出場をやめさせることができます。

(10) どの競技者も、背中の上部もしくは腕に油性のインクで競技者番号をはっきりと表示（ナンバリング）しなければなりません。

(11) 本大会は、マイクロチップシステムを含む自動計測装置を使用して行います。主催者が支給するマイクロチップ（計測器具）をご使用ください。

(駅伝：750 m / 人×4人について)

(1) 駅伝の部は、1チーム4名で構成しての参加となります。

(2) 駅伝のチームメンバーは、エントリー時に予め登録する必要がある。泳順は、競技に先立ち届けた順番に必ず泳いでください。交代は、緊急の傷病が発生してそれが文書で証明し、審判長が承認した場合にのみ交代及び参加を許可します。

(3) 引き継ぎは、主催者が指定した方法で、海上からあがった陸上の指定エリアで行ってください。

その他、競技者は、主催者ならびに全ての競技役員の指示にしたがって安全かつスポーツマンシップに則って競技に臨むようお願い申し上げます。

以上